

学校教育目標	
『活気ある学校』 ○たくましく、自らの生き方を創り出す力を育みます(知・体)	
○いのちを大切にすると、社会の一員としての自覚を育みます(徳・公)	
○伝統を大切に、活気ある学校をつくります(開)	
教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	
〈言語能力〉 〈問題発見・解決能力〉 〈持続可能な社会の創造に貢献する力〉	具体化した資質・能力
	傾聴力・発信力・思いやり
	主体性・実行力・協働力・課題発見力 思考力
中期取組目標	
○各教科等において、ICT等を活用し、生徒が「メタ認知」できる工夫と「知的好奇心」を刺激する授業づくりの研究をすすめ、生徒の主体性を育む授業を目指します。グループワークやペアワークを取り入れ、場の工夫をし、役割やルールを設けて「知的謙虚さ」と「共感性」を育む授業展開を目指します。 ○『横浜 Study Navi』を活用し、自己の生活や学習状況を振り返り、自分の課題を発見し、解決する方法を見出す力を育みます。 ○一人ひとりの個性を認め、『みんな違ってみんないい!』と意識できる生徒を育成します。 ○生徒の意見やアイデアを取り入れ、よりよい学校生活を送ることができるように工夫します。 ○国際交流やボランティア活動等に参加し、他者から『ありがとう』と言われる生徒を育成し、創立80周年に向けて地域の『活気ある学校』を実現します。	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①校内授業研や小中一貫教育推進ブロック授業研を実施する。 ②生徒が主体的に取り組む授業を目指し、「横浜StudyNavi」等のICTを活用しながら、課題を発見し解決する力を育てる。 ③学期末に生徒による授業評価を実施し、集計結果をもとにしながら授業改善を行う。
担当	学習指導部

学力向上に関わる本校の状況	今年度の目標
令和7年度横浜市学力・学習状況調査の結果分析 【国語】学力上位層の生徒が学習課題に満足できず、物足りなさを感じる一方、様々な学力層の生徒が、言葉のもつ価値を認識し、大切にしようとする意識の涵養がある程度できている。言葉への理解を高めることにより深まりのある読解ができる指導が必要である。 【社会】小学校における学習内容が概ね定着している一方、調べた事実をもとに考え問題を解決しようとしているかどうかは、学年で定着度合が異なる。知識の定着を図りつつも、思考し文章に表現してまとめていく力を伸ばしていく学習活動を継続していく。 【数学】小学生のときより、答えを確かめたり求め方を振り返ったりする機会が減っている傾向がある。特に学力上位層でその傾向がみられるので、問題が解ければいいのではなく、見直しをしたり、別の解き方を考えたりする時間を授業の中で意図的につくっていく必要がある。 【理科】観察、実験を通して問題を解決しようとしているかについて、単元ごとに定期的に実験をし、結果から考察をすることを繰り返したことで、科学的な思考力やそれを実行しようとする態度が身に付いてきた。学年ごとに定着度合いが異なるため、継続していく必要がある。 【英語】学力上位層においては、市平均よりも前向きな回答が少なめであるが、低位の学力層においては進んでコミュニケーションを取りたいという回答が多い。自然で必然性のある状況設定から「わかる、伝わる」という実感がもてる学びにつなげる活動を継続していく。	○学力向上アクションプランと、生徒による授業評価との関連を図り、教師の授業改善につなげる。 ○ハーフの授業や、AIドリル等を効果的に活用し、生徒の学力向上に努める。 ○学習相談やアドバイスシート配布の機会を活用し、生徒が学習のあり方を振り返られるようにする。
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	【国語】書くことにおいて、話し合い活動や意見の交流を通して、自分の考えや意見を適切に表現できるように指導を行う。【社会】ハーフの時間等を活用し、基礎的な知識の定着を図ると共に、学習した知識や他者との対話をもとに、複数の意見や資料を比較検討したり、社会的事象の因果関係を考察したりする場面を効果的に設定し、自身の考えや意見を述べられるようにする。【数学】基礎的な概念や原理・法則などを理解させ生徒の考えを数学的に表現できる場を設け、発信力・課題発見力を育むような授業の展開をする。【理科】実験の計画や事象の説明をする活動を取り入れ、仮説の議論や結果の共有、考察等において協働的に学び学習を振り返る場面を設定する。単元を貫く問いに取り込むことで日々の学習内容を互いに関連付けながら活用できるように指導する。【音楽】生徒同士が音楽表現について意見交換し、音楽の良さや美しさを味わって表現できる学習展開をする。【美術】生徒が創造的に思考する力を発揮し、自らの成長を自覚できるように、表現と鑑賞の活動を効果的に組み立て、学びの連続性を図る。【保健体育】学習カードを活用して自己・チームの課題を明確にし、自主的に学習に取り組む。筋道を立てて練習や作戦などを話し合う活動を促す。【技術・家庭科】自らの生活を取り回り課題を発見し、学習した男方、考え方をともに、課題解決の手段を考えられるような授業展開を行う。【英語】コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、生徒が主体的に表現し伝え合う学習過程の改善・充実を図る。【道徳】道徳的問題や価値を自分事として捉え、主体的に考え・議論することを通して、多面的・多角的な見方、考え方や感じ方に触れ、自らのよりよい生き方について考えられるような道徳科の授業を展開する。【特活】所属する様々な集団の中で、生活上の課題を見だし、よりよく解決するため話し合いながら合意形成を図ったり、意思決定したりする活動を設け、社会への参画意識を高める。【総合】実社会や実生活の中から、生徒自身が問いを立て、探究の過程(「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」)が繰り返される学習を展開する。【個別支援】個別の指導計画に基づき、個々の実態に応じて授業形態や学習集団の構成を工夫し、指導の充実を図るようにする。
下半期	

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①子ども自身が人権課題について考える学びを実施する。 ②人権標語を作成し、福祉委員会を中心として人権活動を行う。 ③国際平和スピーチコンテストに向けて全校で作文やスピーチに取り組む。
担当	人権・国際理解教育部

豊かな心に関わる本校の状況	今年度の目標
明るく素直であり、活動的な生徒が多い。落ち着いた生活を送っており、目標に向かってよりよいものを目指そうとする本校生徒の姿がある。学習・部活動・行事にも意欲的に取り組むことができる。反面、将来への不安や目標がもてないという悩みを抱えている生徒もいる。他律的で依存性が高く、粘り強さや集中力に欠けるところがある。	人間としての望ましい生き方についての理解を深め、人間愛に徹した人間尊重の精神を育てる。
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	【項目 道徳教育】道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育(必須項目) ※道徳教育全体計画・別業と運動 ○「道徳の時間」の充実 ・多様な意見に触れることを通して自分の生き方について考えを深められるようにするために、多様な学習方法を取り入れた道徳の授業を展開する。 ・ローテーション道徳では生徒が多様な価値観に触れながら教員の授業力の向上につなげ、学校全体で道徳教育を進めていく。 ○確かな人権感覚や意識の育成 ・自らの子ども観、指導観を見つめ直す校内研修の推進をする。 ・一般学級の生徒は学校行事等で個別支援級の生徒と一緒に過ごし、学びあいながら相互理解を深める。 ・サンディエゴとの国際交流を通して、国際理解教育を推進し、異文化・多様性の理解を深める。
下半期	

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育・食育	①保健体育等の授業活動や、学校行事、放課後の部活動を通して、生徒一人ひとりが成長を感じ、取り組む態度を育てる。 ②栄養や食文化、成り立ちなどの食に関する発信を行い、安全で安心な食に対する知識の充実を図る。 ③学校保健委員会では、健康面の課題について、生徒自らが学び、発信する活動を行う。
担当	保健指導部

健やかな体に関わる本校の状況	今年度の目標
グラウンドが広く、テニスコート・ハンドボールコート・バレーボールコートも併設されており、運動する環境が整っている。 運動が好きで、日常に運動を取り入れている生徒や、部活数も多く、運動部活加入率は高い。そのため、学年を経るにつれて体力テストの結果が向上する生徒が多い。約8割の生徒は運動が好きな生徒だが、体力テストの結果をみると男女ともに市の平均を下回っている項目も見受けられる。 ここ数年、様々な活動が制限されたことで体を動かす機会も減少した。それに伴い体力の低下やけがの増加等が懸念される。今年度も状況に応じて、できる範囲でこれらの課題を解決できるようにしていきたい。	子ども主体による体育・健康に関する活動を日常的に位置付けて取り組むことで、子どもが生涯を通じて運動を日常生活の中に積極的に取り入れようとする態度を育成する。
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	○毎時間、授業の最初にグラウンド1周走ることなどの基礎運動や、技能ドリルを行っている。技能ドリルは、毎時間同じ動きを反復練習することで、様々な種目の基本的な動きを覚えさせる。授業を通して、「いつでもどこでも・誰とでも」運動に親しむ資質と生涯健康に過ごすことのできる態度を育てる。(保健体育) ○自己の食生活をふり返り、望ましい栄養バランスや献立づくりができるようにする。(家庭) ○体育大会実行委員会では、体育大会を通して、心身の鍛錬と体力の増進をはかり、合わせて集団行動と親和・協力の精神を体得させる。体育委員会として昼休みにボールの貸し出しを行い、外での積極的な運動を促進している。(特別活動) ○保健委員会では、健康面での課題や、校内の安全点検を行い、危険を予知し、回避できるよう活動させている。(特別活動) ○学級活動の時間では、学年の交流を高め、協力して取り組み、生徒の結束を高める。(特別活動)
下半期	